

7. 喫煙習慣、血圧、BMI が平均余命に与える影響：NIPPON DATA90

研究協力者 月野木ルミ（日本赤十字看護大学地域看護学領域 准教授）
研究協力者 村上 義孝（東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野 教授）
研究代表者 三浦 克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授）
研究分担者 岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授）
研究分担者 早川 岳人（立命館大学衣笠総合研究機構地域健康社会学研究センター 教授）
研究分担者 岡山 明（生活習慣病予防研究センター 代表）
顧問 上島 弘嗣（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授）
NIPPON DATA90 研究グループ

【目的】日本人集団を代表するコホート研究である NIPPON DATA90 を用い、喫煙習慣、血圧、BMI (Body Mass Index) が平均余命に与える影響について、多相生命表を用いて検討した。

【方法】全国規模のコホート研究 NIPPON DATA90 の 20 年追跡データを用い、喫煙・血圧・BMI の水準別における平均余命を算定した。使用した情報は、1990 年のベースライン時の問診票情報(循環器疾患基礎調査)で、喫煙習慣(禁煙、現在喫煙)・血圧値(至適血圧、正常高値血圧、1 度高血圧、2,3 度高血圧)、BMI (kg/m²) (低体重：18.5 未満、普通体重：18.5 以上 25 未満、肥満：25 以上)を用い、日常生活動作は、1995 年と 2000 年の調査で全て自立と回答した者を自立とした。以上の情報と多層生命表 (iMach 0.98r7) を用いて、喫煙・血圧・BMI カテゴリ別の 60 歳時平均余命を算出した。

【結果】肥満・血圧レベルによらず、非喫煙に比べて喫煙の 60 歳平均余命は短い傾向を示した。また同一の BMI カテゴリ内では至適血圧から血圧レベルが上がるにつれて平均余命が短くなる傾向がみられた。一方、低体重・肥満は、普通体重と比べて若干平均余命が短く、やや逆 U 字型の傾向を示した。男性でみると、非喫煙・至適血圧・普通体重グループは、24.3 歳であるのに対し、非喫煙・至適血圧・肥満グループは、23.9 歳と若干短くなるが、非喫煙・2,3 度高血圧・肥満グループでは、21.9 歳と大きく短縮し、さらに喫煙・2,3 度高血圧・肥満グループでは 19.1 歳と顕著に短縮したことから、喫煙と高血圧の影響が大きいことが明らかになった。(非喫煙・至適血圧・低体重：男性 22.2 (歳)、女性 26.0、喫煙・至適血圧・低体重：男性 18.7、女性 22.7 非喫煙・至適血圧・普通体重：男性 24.3、女性 28.2、喫煙・至適血圧・普通体重：男性 21.1、女性 25.3、非喫煙・2,3 度高血圧・肥満：男性 21.9、女性 25.9、喫煙・2,3 度高血圧・肥満：男性 19.1、女性 23.4)

【考察・結語】日本人男女において、喫煙と高血圧が60歳時平均余命に与える影響は大きいこと、同時に肥満および低体重の与える影響も喫煙や高血圧ほど大きくはないが、60歳時平均余命に影響を与えることが明らかになった。この結果は、日本人の主要死因や要介護となる主な疾患ががん・脳卒中であること、その主要危険因子が喫煙と高血圧である現状と一致している。また、この傾向は60歳時健康寿命も同様の傾向であった。今後は、本研究結果を根拠とした喫煙・高血圧・肥満対策を重視した予防対策の一層の強化が必要である。

第29回日本疫学会 東京都 2019年1月31日